

寺社を巡る会

活動記録書

開催日： 平成29年4月6日(木) 晴	開催テーマ： 桜の名所「大庭城址」を訪ねる
開催場所： 藤沢地区③(大庭御厨)	記入者： 飯富 禧子
参加人数： 寺社を巡る会会員 男 25名 女 8名 計 33名 ビジター 男 名 女 名 計 0名 合 計 33名	
実施内容(実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など)： コース： 辻堂駅北口 ～ (バス) ～ (大庭小学校前) ～ 小糸神明社 ～ 大庭城址資料館 ～ 大庭城址公園 ～ 舟地藏 ～ 引地川親水公園(昼食) ～ 成就院 ～ 熊野神社(旧大庭神社跡) ～ 臺谷戸稲荷 ～ 宗賢院 ～ 大六天バス停 ～ (バス) ～ 藤沢駅北口(解散)	
鎌倉の歴史に馴染み深い大庭氏ゆかりの史跡探訪の端緒は、小糸神明社の参詣から始まった。この神明社は古くは「大庭郷」ゆかりの地である大庭御厨内に伊勢神宮の末社を勧請したものであるが、宅地開発の影響で現在地に遷座された。大庭御厨は鎌倉権五郎景政が永久4年(1116年)に新田開発、立荘したのが始まりであるが、源義朝軍勢の度々の狼藉、略奪行為から御厨を守るため伊勢神宮に寄進し、その後一族が御厨を継承、大庭氏を名乗ったものである。 次に訪れた大庭城址公園は、平安時代から戦国時代まで存在した大庭城跡を利用して造られた総合公園である。大庭城は室町時代中頃に本格的な築城がなされ、北条早雲によって攻略された後、豊臣秀吉の小田原攻めで開城となり、元和元年(1615)の一国一城令で廃城となった。現在も残る遺構及び周辺の駒寄・裏門・二番構などの地名から大庭城が大きな規模を持った城であったことが分かる。今回探訪の目玉である城址公園の桜は、ガイド協会の推挙通り、芝生広場の大樹が見事な花盛りで、皆の目と心を楽しませてくれた。 舟地藏は、北条早雲の大庭城攻略の際、引地川の堰を切ることを進言して秘密保持の為に殺された老婆を悼み祀られたという謂れを持つ舟型台座の地藏である。像と台座の時代が異なるが、心に留めおきたい地元に伝わる哀話であった。 次に訪れた成就院は本尊が珍しくも愛染明王である。お寺の好意で本堂の外からであったが愛染明王を拝観することが出来た。成就院は江戸時代には大庭神社の別当を務めたと謂われ、神仏習合のこの関係が現在も生きており、成就院の住職が大庭神社の鐘を毎日突いているということである。大庭神社は菅原道真を合祀したので天神社とも呼ばれるが、大庭の総鎮守である。安永6年(1777)には大庭景親を合祀している。相模国13座に名を連ねる延喜式内社の一つである。 熊野神社は大庭神社の旧跡と伝えられ、高い石段の上に建てられており、足に自信のない大半の会員は下から拝観させて頂いた。 引地川の平野を越えた台地上を臺(ダイ)、北側の谷は谷戸(ヤト)と呼称するが、相模野の自然が残る森に「かながわの名木100選」に指定されている樹齢約300年、幹回り6mのタブの巨木を観ることが出来た。大庭台の開発が進んでいるとはいえ、まだ自然の多い相模野である。 最後に訪れた宗賢院は、龍骨堂に祀られている龍骨が周辺の村が旱魃になった時、雨乞いの儀式で祀ると霊験があり、必ず雨が降ったと言いう言い伝えが印象に残った寺であった。 強風に追われるように歩く時もあったが、遠望の利く台地上を歩く心地良さを楽しめる探訪でもあった。	
参加者の状況・意見など： 昼食場所の引地川親水公園は強風の煽りを受け、食事を摂るので精一杯。長閑かであろう公園の良さを感じることは出来なかった。	
次回の予定： 5月12日(金)10:00 江ノ電 稲村ヶ崎駅集合 稲村ヶ崎、由比ヶ浜、宝戒寺など	